



長野県木島平村へ行政視察

—— 交流とゴミ処理施設の視察

こがね色に輝く稲穂と、ソバ、野沢菜やリンゴの畑、そしてこれを囲む山々と千曲川が織りなす風景はまさに日本の原風景でした。里山の豊かさを感じながら議員7人（博文、英治、宗春、崇、睦男、土屋、幸子）で、人口4,900人の村を視察してきました（10月12～14日の2泊3日）。

そもそも きっかけは、元八丈支庁長・三井幾男さんのご兄弟が木島平村の住民だったこと。有志の交流が始まり、昨秋は八丈を訪れた12人の村会議員を、町と議員で歓迎しました。中には八丈が4回目という人もいました。やがて子供たちをスキーに呼びたいという声上がり、今年2月に八丈の小学5年生47人がスキー教室に行き、8月には木島平村から40人の小学生が水泳教室に来島しました。

八丈のもてなしに感動 海のない木島平村の子供たちにとって八丈の海は特別だったようで、その喜びように引率の先生も驚いたそうです。先生自身も、島を離れる日に雨の中、送迎デッキで飛行機が見えなくなるまで手を振ってくれた町職員に感動していました。こうしたきめ細かな対応が、八丈ファンを生み、あらたな観光客を呼ぶことに繋がることを、今回の村との交流で実感しました。木島平村の対応も素晴らしいことは言うまでもありません。

「誇れる木島平」をめざして 村は3つの保育園を統合し、小学校も1つにして持続可能な村づくりを進めています。空き校舎や公共施設の活用もその一つです。少子高齢化に悩む姿は他の過疎地域と同様で、若者の誘致にも力を入れていました。また、農村の優れた伝統文化、歴史を再発見する試みが進んでいて、大学と連携して講義や体験学習を開いています。八丈町でも島民大学講座を開き、著名な学者の講義を聞く活動を30年以上続けてきた実績があります。地元の自然・文化・産業を見直す動きは今各地で勢いづいています。農業に関する様々な取り組みについては、別の機会にご紹介したいと思います。

広域事業によるゴミ処理 木島平村は5つの町村と隣接していますが、ゴミ処理については、飯山市と野沢温泉村とで広域事業を進めています。1市2村で約32,000人。焼却場が老朽化したので、2年前にエコパーク寒川が建てられました（写真上）。敷地内にある中間処理施設では、分別が徹底されていました（写真下）。また回収した熱を使った温水・温風を、冬期の屋根の融雪に利用しています。

可燃ゴミの量は予想外に少なく、木島平村の量は780トンで、焼却灰は110トン（広域全体ではゴミ7,000トン、灰1,000トン）でした（年間）。ちなみに、八丈島では可燃ゴミの量3,000トン、焼却灰400トンです。八丈は、人口は2倍なのにゴミの量は約4倍。これは木島平村では、広域事業でプラスチック包装容器の分別が進み、資源化されていることが大きく関連しています。また農家が多く、野焼きが日常的に行われていることも無関係ではないかもしれません。

粗大ごみ破碎機の威力 エコパークでは、有料で粗大ごみを受け入れ、機械で細かく粉碎し、さらに金属などを選別したうえで燃やしています。布団や畳、イスなどをそのまま機械が飲み込む様子は圧巻でした。八丈では有明興業が受け入れています。この一部をクリーンセンターで処理できた



らゴミの減量に大いに役立つに違いありません。

24時間連続運転の焼却炉 焼却の始めと終わりで温度が低下しダイオキシンが発生するといわれます。そのリスクを排除するために連続燃焼させています。焼却灰の検査値は、法定基準のはるか下でした（年2回実施）。また灰は降雪時期には処分場に搬入できないため、年に2回搬入するのみです。そのため灰ストックヤードも整備されていました。



管理型最終処分場 安定型処分場跡地に隣接していて、埋め立て容量は22,000立米で八丈の半分以下、埋め立て期間は15年です（写真）。2年前に完成し、地下水感知システムも整備されていました。埋め立て場所は山の上であり、浸出水は、雪の少ない少し離れた低地の水処理施設までパイプで送られ、千曲川に放流されています。これも雪国特有の事情によるものでした。

病院の不明金問題

9月1日の全員協議会と9月7日の定例議会の冒頭、昨年から問題になっていた町立八丈病院の不明金について、企業管理者が概要を説明しました。「不明金は2009年8月1日から2010年3月26日までで、合計3,417,426円。そのうち270,000円については窃盗事件となった。被疑者が認めた270,000円に町が依頼した弁護士費用や旅費を加えた合計額146万円については被疑者が弁済することで示談が成立した。残りの不明金については、関係者が賠償責任を負うことになった。関係する職員の処分については、事務長1/10の2か月減給、係長1/10の1か月減給を決めた。」これらの事実を踏まえて町がまとめた問題点は、(1)帳簿の不備 (2)残高あわせの未実施 (3)不要な現金保管 (4)町の組織体質、などでした。

これに対し、議員からは、「なあなあの町の体質が問題で、根本的な治療が必要だ。以前にも水道問題があったのに繰り返している。これで大丈夫なのか。民間企業ではありえない。」など厳しい追及があいつぎました。町は、再発防止策として、必要以上の現金を持たない、臨時診療の医師や救急ヘリの同行医師への支払いを振込にすること、出納は毎日行なうことを約束しました。私たち議員もチェック態勢の甘さについて反省しなくてはなりません。

9月議会一般会計補正、企業会計決算質疑から

．．．．私の質問を中心にまとめました

- 8月の落雷への対応．．．．停電はほとんどの世帯ですぐに復旧したが、永郷屠場の冷蔵庫内のヤギ肉が腐ってしまった。すぐに対応すべきだったのでは？
【町】 屠場はヒューズが飛んでいたのに気が付かなかった、今後はすぐに対応する。
- 東日本大震災被災者の受け入れ状況について．．．．被災者の受け入れ人数、就労状況は。島に定住できるよう促す施策と孤立させない努力が必要では？
【町】 6世帯15人。就職はほとんど決まっている。電話したり地元紙を配布したりするなど孤立しないよう考えている。
- 看護学校誘致の状況は．．．．これまで何度か浮かんで消えていた医療法人による看護学校の誘致。法人の名称は？前町長が進めていたが現状は？
【町】 医療法人は赤枝会。新規事業の場合、講師や研修設備に投資が必要になるなど、もともと学校経営は不採算事業と言われている。町の財政支援をあてにすることなく経営が可能かどうか、この法人にシミュレーションをしてもらっているとところだ。新町長が決まってから回答したい。
- このほか、防災は、消防員・民生委員・自治振興委員が連携するべき。建築確認申請が下りないまま工事を始めてしまった例があるが、順序は守るべき。一戸建ての町営住宅に空き室が目立つ。今後は単身者向けにシフトしていくべき。放射線量測定結果は、町のホームページで報告しているが、他のものについても測定すべき。ふれあいの湯のロッカーが壊れているので早急に修理を。裏見ヶ滝の歩道整備を。乙千代ヶ浜プールについては、当初予算で組んであとでやめるのはおかしい．．．．など多くの質疑がありました。



2011年9月議会 一般質問

<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>



1. 合併浄化槽の普及にあたり、細かな現状把握と柔軟な対応を

合併浄化槽整備事業を進めるため、町は各地区で説明会を開きました。しかし、説明会に参加してみると、この事業の意義や内容が住民に十分伝わっていないだけでなく、全体的に仕組みが複雑な上に条件が厳しすぎ、現実的でない部分が多いことがわかりました。この事業を進めるために以下のような作業工程が必要と考えます。

- (1) 設置世帯と未設置世帯における汚水処理状況を把握できているか。
- (2) 優先地域への働きかけはどのように進めるか
- (3) 事業者が設置する場合の負担に対しては柔軟な対応ができないか

企画財政主幹 (1) 平成21年度に全世帯の汚水処理状況を調査している。一般家庭の浄化槽設置世帯は1,259、単独処理浄化槽は475、し尿汲み取り便槽は2,763世帯。事業所ではそれぞれ41、33、201という状況である。
(2) まず側溝に流している地域、水源に近い地域の世帯に設置をお願いしていく。
(3) 住民の意見を聞き、市町村整備事業を実施している全国の自治体の事例を参考にし、事業所についても浄化槽整備が促進される方法を検討したい。

幸子 事業所の規模が実態と異なること、同一敷地内で2世帯ある場合は10人槽を設置しなければならないこと、短期間しか使用しない場合も同一使用料であること、浄化槽の処理水を都道の側溝に流せないこと、こうした現実にそぐわない決まりばかりでは設置が進まないと思う。設置を促すよう、柔軟に対応し、緩和策を考えるべきだ。また、説明会や広報では、個々の事例と処理料金を図解してわかりやすく説明してほしい。

企画財政主幹 まずは基準通りに進めるが、問題が生じたら島しょの状況を考慮し他の離島と連携して基準緩和策を検討したい。今後は視覚に訴える方法を取り入れ、わかりやすく広報周知をしていく。

2. 新庁舎建設について

町役場新庁舎の建設がようやく本格的に始まりました。7月の新庁舎説明会では集会施設に関する質問と要望が多く出されました。

- (1) 集会施設の運営については運営協議会の設置を
- (2) こけら落としの準備はどのようにするのか

企画財政主幹 (1) 理運営について検討に入っている。12月までを前期とし、設計業者と町で、既存イベントや時間・曜日の整理など基本方針を決めていく。完成までの期間を後期とし、関係団体や住民の要望が検討される組織をつくる。

- (2) こけら落としの準備も後期に決定される運営組織を中心に検討していくことになる。

3. 東電地熱館の再開を

福島第一原発の事故以来、東京電力の方針で八丈島の地熱館は閉鎖されました。地熱館はこれまで坂上地区の観光スポットとして重要な役割を果たしてきただけでなく、再生可能エネルギー推進のモデル地区として内外にPRしてきました。再開を望みます。

企画財政主幹 4月以降については、今年中に報告するという説明を受けている。町にとって必要な施設と考えており、再開に向け取り組んでいきたい。☒



「養護老人ホームの今後のあり方について」

第3回総務文教協議会



10月31日午後1時半から、総務文教委員7名、町から健康課長、係長、養和会からは理事長、養護老人ホーム施設長、事務長、特養ホーム施設長が出席し、養護老人ホームの老朽化が指摘されている中、町の措置施設を今後どうしていくのかについて、町と養和会の実情を聞きました。

養和会は、社会福祉法人であり、一事業者なので民間の運営に徹していきたい。そのために、組織の改革、職員の研修や資格取得をすすめ、人材の育成につとめてきた。町が今後の方針を出せば、協力していく用意も責任もあるが、できないこともありうる。

町は、当面は養護の施設改修などを補助する。措置施設は現時点でなくせないが、単なる養護施設ではなく、小規模特養の増床もあわせて、転換可能な複合施設の建設を考えている。増床するとなれば、当然介護保険料は上がる。建設規模や時期については、明らかにできないが平成25年度から設計などの準備に入る予定なので、第5期介護保険改正には盛り込めない。

議員からは、介護施設が増えれば保険料の負担が増えるので、特に介護サービスを受けない40歳から65歳の第2号被保険者に十分な説明が必要だ。措置施設はなくす方向で考えるべきだが、措置せざるをえない人はこれからもゼロにはならない。実態を精査し、はっきりした数字をもって将来像を描いてほしい。

感想 養護の待機者は精査したところ今3人。現在入所している47人のうち特養に入るべき人は6割。こうした現実を踏まえ、措置が必要な人を施設で措置するのか、今の住居で訪問介護と看護を提供しながら自立を促していくのか、町と養和会で見解は異なっていました。意見の隔たりをこれ以上広げることなく、お互いの立場に理解を示して、将来にわたる財政の見通しをしっかりと立てることが両者にとって重要だと感じました。

最終処分場運営協議会はじまる

議会から山下崇議員と幸子の2名が委員に

現在水海山に建設中の管理型最終処分場について、建設と供用開始後の運営が安全に行われるよう見届ける組織として、一部事務組合から3名、ゴミ処理問題協議会から4名、町の担当課長、議員2名、公募2名合計12名の委員で構成される協議会が9月に立ち上げられました。

これまで、10月5日、24日の2回開かれ、重要な工事過程である浸出水と地下水のピットを作っているところを視察し、浸出水ピットに漏れがないかどうかを確認しました。公募委員からは、工事の内容を説明するだけでなく、委員の意見をもっと取り入れる会であってほしいと要望がありました。一組は協議会の趣旨に沿ったものであれば、取り入れると答えました。

編集後記・・・分かち合いの精神

大震災から8か月が経ちました。しかし東北3県のガレキ撤去が進みません。東京都はいち早く受け入れの名乗りをあげましたが、放射能汚染の不安から、受け入れる自治体は増えないそうです。震災直後はみんなで助け合おうという気持ちが前面に出ていたのに、最近では風評被害に苦しむ被災地の姿が浮き彫りになっています。苦しみや悲しみはみんなで分かちあえば、被災地の復興も進み、人々の気持ちも楽になるのにと、日々思います。

さちこのニュースレター
第三十六号 / 二〇一一年十一月
編集・発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子